

平成 26 年度
地域の“まちづくりびと”養成講座
(入門編)

つながるまい!! 防災・減災たすけ愛

第1回

『まちづくりってなんだろう？

～名古屋の防災・減災について学ぶ(その1)
プロローグ』

日時：平成 27 年 1 月 10 日(土)

時間：13 時 30 分～16 時 30 分

場所：松栄コミュニティーセンター

正月気分も抜けきらない1月初頭、昭和区の松栄コミュニティーセンターにて「平成 26 年度地域の“まちづくりびと”養成講座(入門編)」の第1回講座を開催しました。

今回の講座は、名古屋の防災・減災をテーマに、まち歩きやワークショップなどを通してまちづくりや合意形成の手法を学び、体験する全6回の講座です。

都市センターの養成講座修了生である「まちづくりびと」と陶生町自主防災会代表、名古屋都市センターで実行委員会をつくり、講座の企画・運営を行います。また、講座全体のアドバイザー及び講師は株式会社対話計画代表の葛山稔晃さんです。



♥ 開講

はじめに、主催者の挨拶とスタッフの紹介、配布資料の説明等のオリエンテーションのあと、講師の進行でアイスブレイクを行いました。今回は講座の初回ということで、緊張をほぐしお互いのコミュニケーションを図る目的で以下の4つのアクティビティを行いました。

・旗揚げアンケート【質問】①「今日の気持ちは？」②「受講の目的は？」

4つの選択肢の中から1つを選び、その色の旗を揚げます。

①は「やや緊張している」と「楽しみでワクワクしている」が半々くらい、②は「防災・減災に感心がある」が最も多く揚がりました。

・じゃんけんで席決め

講師と一斉にじゃんけんをして、勝った人同士が席を交換しあい、これを何回か繰り返して席をシャッフルします。

・名札づくり

まず、隣同士でペアになり、名札用紙に○△×□を使ってお互いの似顔絵を描きます。描いてもらった似顔絵入りの名札



「旗揚げアンケート」の様子



お互いに似顔絵を描いている様子

に自分が呼ばれたいニックネームを書いて、名札は完成です。

・テーマをつないで輪になろう

輪になった席を時計回りに、「ぼうさい」「げんさい」「たすけあい」と順に言っていき、「たすけあい」の時は隣の人の肩をポンと軽く叩きます。テンポよく続けて、最後まで間違えずに言えたら成功です。



「テーマをつないで輪になろう」の様子

このアイスブレイクをとおして講座の雰囲気はほぐれ、やや緊張気味の様子だった参加者同士も打ち解けあって、笑い声や会話が生まれるようになりました。

♥ 地域の活動事例報告「防災・減災について学ぼう!!」

昭和区で積極的に防災まちづくり活動をしている陶生町自主防災会が行っている活動の事例を、代表の高橋芳彦さんにお話して頂きました。

陶生町は 100 世帯ほどの町ながら、名古屋で一番のモデル自主防災会を目指して活動をしており、特に地域防災には温かいコミュニティづくりが重要であると考えて、顔の見える関係づくり・信頼関係づくりに力を入れています。



具体的には、焼き芋大会や工作教室・風揚げ大会、地蔵盆祭りなどの親子で参加できる催しから、個人宅の駐車場にパラソルとテーブルを設置して毎月開催している「街かどオープンカフェ」といった誰もが参加しやすい場所を設けるなど、人々が集まりたくなるような場所づくりをして、そこでアイデアや要望などを出し合い、防災・福祉の基盤である“助け合いの仕組みづくり”を作っていくことが大切だと高橋さんは語り、実際に行っている活動事例として、以下の取組みなどをあげ解説をしました。

① 安否確認の「幸せの黄色いリボン」「呼子笛」を全戸配布

震度5強以上の地震発生時に、家族全員が無事な世帯は玄関前に黄色いリボンを掲示します。また、要援護者に呼子笛を配り、有事の際に吹いて助けを呼べるようにします。

② 「地域支え合いマップ」づくり

災害時のために、どこに災害時要援護者が居住しているかなど、本人や家族の意向のもと差支えのない範囲で記載した安否確認のためのマップづくりをする。

③ 夜間防災訓練

蛍光の「黄色いリボン」を使用したブロック別安否確認訓練、アマチュア無線の状況報告交信訓練、災害時要援護者支援訓練、クロスロードゲームなど。

④ 炊き出し訓練

ライフラインが止まった状況を想定して、かまどを使用して芋煮をしたり、食品を持ち寄って炊き出しをしました。今年は「ハイゼックス炊飯器」の使用を予定しています。

スライド写真の一部



「焼き芋大会」の様子



「街かどオープンカフェ」の様子



「夜間見回り確認」の様子



「炊き出し訓練」の様子



「アマチュア無線基地局交信訓練」の様子

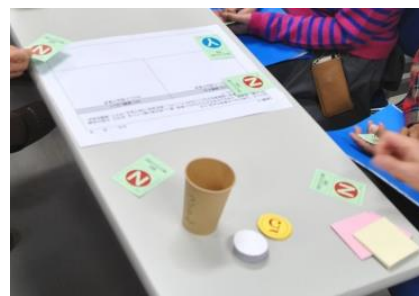


地域支え合いマップ

♥ ワークショップ「クロスロードゲーム」

休憩を挟んで、5つの班に分かれてクロスロードゲームを行いました。

このゲームでは、班ごとに奇数になるよう人数を振り分け、実際の災害を想定した各設問に対してそれぞれ「YES」か「NO」どちらかの札を出し、多数派になると1点コインがもらえます。全員が同じ答えだとコインは無し、1人だけが違う答えだった場合は5点コインがもらえます。



これはただ得点を競うのではなく、「なぜそう思ったか？」を書きだして話し合い、お互いの考えや価値観を批判せず共有して、正解を求めない話し合いを行う訓練になります。

クロスロードゲーム…クロスロードは「岐路・分かれ道」という意味で、ゲーム感覚で学びながら、災害対応を自らの問題として考え、様々な意見や価値観を参加者同士で共有することを目的としています。

ゲームは3回行い、設問の一つは以下のような内容でした。

問 題

あなたはこの地域の「援助物資担当の責任者」です。
避難所へ避難してきて数時間後、あなたは避難所の運営を手伝っています。
現在避難所にはおよそ200人が避難しています。しかし、避難所に配られてきた食料は150食。以降の見通しは今のところなく、今後地域以外の避難者が増える可能性もあります。
まず150食を配りますか？

答 え

YES（配る）

- 今できることはやっておくべき。
- 高齢者、子どもから配分。
- 200食に配分しなおすなど、工夫して配る。など

NO（配らない）

- 空腹が限界に達した時に配る。
- 全員に配る分がない場合は配らない。など

♥ チェック・イン「私の所信表明タイム」

ひとことスピーチで自己紹介を行いました。

配布した「たすけ愛カード」に項目を書き込み、それに沿ってプロフィール、講座に期待することなどを1人1分程度で発表しました。発表は、班ごとに前にでてスピーチし、終わった人からカードを模造紙に貼っていきます。

多くの方が防災減災の知識や進め方、人との交流・出会いを求めて講座に参加したことなどを語りました。



「たすけ愛カード」
貼り出された



最後に、講師による講座の振り返りと次回講座の案内、アンケートの記入を行い、全員で会場の片づけをして第1回の講座を終了しました。

アンケートには「和気あいあいとしていて良かった」「楽しかった」などの声が寄せられ、次回以降に期待をつなぐ内容となりました。